

備 前 市 施 策 評 価 シ ー ト

【令和2年度作成】

施策名 (小項目)	一般廃棄物の適正処理と省資源・循環型社会の構築	決算書 P126-129 P132-137	(款)4 衛生費(項)1 保健衛生費 (目)3 環境衛生費 (款)4 衛生費(項)2 清掃費 (目)1 清掃総務費 2 塵芥処理費 3 尿処理費
コード	05-09-37	作成者	環境課長 久保山 仁也 (tel 64-1821)

この施策の  
アピール  
ポイント

市内に資源回収ステーションを設置し、新たなごみ分別・9種23分別に取り組んでおり、燃やすごみや埋立されるごみが減量化され、資源化が進んでいる。備前・吉永地域では、市職員が直営でごみを収集しており、きめの細かいサービスが提供できている。

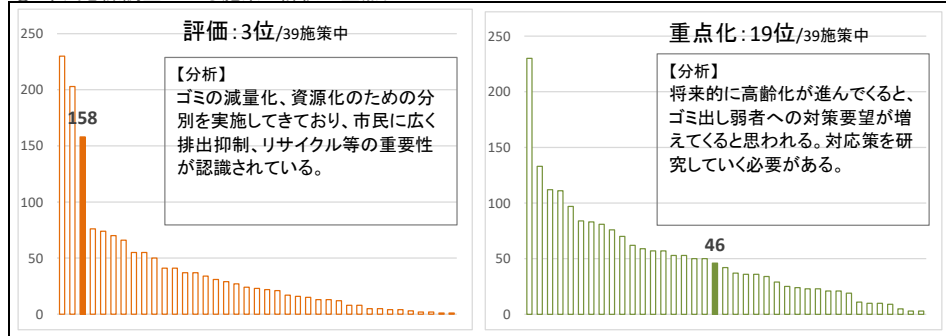
この施策の  
平成31年度の  
施政方針

一般廃棄物の適正処理と省資源・循環型社会の構築につきましては、引き続き減量化、資源化のためのごみ分別を推進するとともに、市民の協力を得ながら、9種23分別の完全実施やリサイクルの向上を目指して取り組んでまいります。また、一般廃棄物処理基本計画の見直しを行い、持続可能で環境負荷の少ない社会の構築を図ってまいります。

<備前市総合計画の内容から記載する>

① 政策の体系	基本構想(大項目)	05 生活環境政策「快適・活力」
	基本計画(中項目)	09 環境を大切にして未来につなぐまち
② 対象と目的 (誰のために、何のために)	市民、事業者、市が一体となって、廃棄物の減量化、資源化と適切な処理に取り組み、循環型社会を実現する 環境美化意識を向上させ、美しい自然や良好な景観を保つ	
③ 現況と課題 (総合計画から現在の 問題点を抽出)	現在、ごみの処理については、平成25年度をもって和気北部衛生施設組合のごみ処理を終了したことにより平成26年度から市内の施設等で処理をしています。そのため、収集体系の統一はもちろん、ごみの減量化に向け、更なる分別・リサイクルの推進に取り組む必要があります。また、2つある最終処分場の残余容量及び残余年数を見極めつつ、次の候補地を選定していく必要があります。し尿・浄化槽汚泥については、平成28年3月をもって和気・赤磐し尿処理施設一部事務組合を脱退したことにより、吉永地域も平成28年4月に新設された備前市汚泥再生処理センターで処理しています。市の施設に持ち込まれたごみは適切な処理を行っていますが、空き缶やたばこのポイ捨て、人目につみにくい道路沿いや河川などで不法投棄が発生しており、その防止のためモラル、マナーの向上や環境美化への意識を高めていく必要があります。	
④ 施策展開 (総合計画の施策部 分から、実施する施 策を抽出)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分別の徹底</li> <li>・ リサイクルの推進</li> <li>・ ごみの発生、排出抑制</li> <li>・ 施設の適正運営と計画的な更新</li> <li>・ 環境美化</li> </ul>	

⑤ 市民意識調査による施策の評価・重点化



⑥ 施策成果指標(基本目標・基本施策・施策意図から設定)

施策に対する成果指標名	単位	過年度実績			評価年度	成果指標の計算式の説明 ベンチマークの説明	目標値	
		H29	H30	R1			R2	R4
成果指標 市民1人当たりのごみの総 排出量	目標	kg	296	296	296	(可燃ごみ+不燃ごみ+資源ごみ)/人 □	R2	294
	実績	kg	304	298	298		R4	293
	達成率	%	102.7	100.7	100.7		—	—
参考指標 可燃ごみの量	目標	t	7,073	6,932	6,857	クリーンセンター備前の可燃ごみ量	R2	6,782
	実績	t	7,900	7,821	8,027		R4	6,527
	達成率	%	111.7	112.8	117.1		—	—
参考指標 ①	目標	t	3,198	3,166	3,125	資源回収(直営)+資源回収団体+焼却灰資源化量	R2	3,084
	実績	t	2,371	2,306	2,353		R4	3,026
	達成率	%	74.1	72.8	75.3		—	—
参考指標 ②	目標	件	20	20	20	処理件数	R2	18
	実績	件	22	21	11		R4	18
	達成率	%	110.0	105.0	55.0		—	—
参考指標 ③	目標	件	3	3	3	美化活動回数	R2	3
	実績	件	2	2	2		R4	3
	達成率	%	66.7	66.7	66.7		—	—
参考指標 ④	目標						R2	
	実績						R4	
	達成率	%					—	—
参考指標 ⑤	目標						R2	
	実績						R4	
	達成率	%					—	—
参考指標 ⑥	目標						R2	
	実績						R4	
	達成率	%					—	—

⑦ 目標達成に必要な新規事業(施策構成事務事業以外の事業)及び連携させる他部署の事業

実施主体	新規に必要な事業・連携が必要な事業	説明・期待される効果
備前市	可燃ごみ(生ごみ・剪定枝等)分別資源化、ゴミ出し弱者対策	可燃ごみの内、生ごみ・剪定枝等を分別資源化することで、可燃ごみの減量化が図られ、施設の延命化に繋がる。また、今後高齢化により増加されると思われるゴミ出し弱者対策の研究をしていく必要がある。

⑧ 施策の評価

項目	評価	5:非常に高い 4:高い 3:どちらともいえない 2:低い 1:非常に低い	
		判断	理由(なぜ、そのランクと評価したのか)
1 <成果指標の妥当性> 施策の目的・成果を表現しているか?	4		ごみ減量化は、一人一人のゴミ排出者の意識改革が必要と考えている。ゴミの焼却能力、限りある埋め立て地の有効かつ延命化を進めるためにもゴミ排出量の減量を目指すため必要な指標である。
2 <事業構成の妥当性> 手段は最適か?	4		各個人のゴミ排出量を抑える事も重要だが、ゴミの資源化やリサイクルなど有効利用も必要と考えており、目的達成のために今後も必要な事業である。
3 <施策の有効性> 指標分析、評価年度・中 長期の達成見込みは?	4		資源化量は分別収集の普及と資源回収団体が資源ごみを回収しているものの、目標を達成していない。ごみの減量化、資源化については、今後も取り組んでいかなければならない。
進行年度(R2年度)の取組内容 (課題解決状況)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ごみの減量化、資源化のため、平成22年度から取り組んできた新たなごみ分別は、日生・吉永地域では概ね100%完了している。備前地域は、90%以上となっているが、100%に向けて今後も継続して推進していく。</li> <li>・ 次期一般廃棄物最終処分場候補地の具体的な検討</li> </ul>
翌年度(R3年度)の取組目標			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続きごみの減量化、資源化のため、資源ごみ回収推進団体の増加を図る。</li> <li>・ 備前、日生の一般廃棄物最終処分場の効率よい運用、ゴミの減容化を検討する。</li> <li>・ 新たな処分場整備に向けた準備調整</li> </ul>
二次評価者コメント			ごみの減量化や資源化、人口減による排出ごみ量の減少を踏まえながら、環境にやさしい施設の継続に努めているところであるが、可燃ごみの減量化や資源化の目標値達成には至っていない。今後も引き続き省資源・循環型社会と自然共生型社会の実現に向けたごみ処理方法を一層推進していく必要がある。
役職 氏名	市民生活部長 藤田 政宣		基本施策への 貢献度  4 やや高い